【ミャンマー】日本の団体が救急車寄贈、ミャンマー医療に貢献

NNA 11月21日(木)8時30分配信

ヤンゴンで開かれた救急車の贈呈式。左が世界こども財団の土屋理事長。左から2人目が黒岩神奈川県知事＝20日（NNA撮影）

写真:NNA

子どもの育成を支援する団体、世界こども財団（神奈川県大磯町）は20日、救急車２台をミャンマーの保健省に寄贈すると発表した。ミャンマーの地方部での遠隔医療制度の確立を後押しするのが狙いだ。同財団が海外で支援活動を行うのはブータンとバングラデシュに次いで３カ国目になる。

世界こども財団はミャンマー最大の都市ヤンゴンで20日、贈呈式典を開催し、土屋了介理事長が保健省のテイン・テイン・テー副大臣に目録を手渡した。土屋理事長は「今回のプロジェクトを通じて両国の絆がますます深くなると確信している」とあいさつ。ミャンマー訪問中の黒岩祐治神奈川県知事も出席し、「神奈川県としてもミャンマーの役に立つような協力を進めていきたい」と語った。

財団はこれまでに、ミャンマーからの短期留学生受け入れや人材育成に向けた資金提供、不法電波の監視システムの提供といった支援も行っている。短期留学生については神奈川県の協力を得て、来年１月にミャンマーの高校生を１週間にわたり県内の高校で受け入れることになっている。